

大村智先生へ緊急インタビュー

イベルメクチンはコロナ対策の救世主となるか

聞き手・馬場錬成（21世紀構想研究会）

世界中に蔓延している COVID-19（新型コロナウイルス）感染症の出口が見えていません。日本は他の国々と違った対応策をとっており、これが功を奏するのか大失敗に終わるのかまだ行方が見えていません。そこへ大村智先生が発見したイベルメクチンがコロナにも効くというニュースが相次いで海外から飛び込んできました。

日本でも大村先生のおひざ元の北里大学・大村智記念研究所で臨床治験が始まっており、一日も早い成果が期待されています。本研究会の学術アドバイザーの大村智先生に可能性を聞いてみました。

馬場 まず簡単にイベルメクチンがコロナに効いたという海外の学術研究の内容をお聞きします。最初に伝えられたのは、オーストラリアのモナシュ大学の研究グループでした。ただこれは細胞レベル、つまり試験管内のサルシンの由来の細胞内で増殖するコロナウイルスが、イベルメクチンの投与によって48時間以内に増殖しなくなったというものでした。人間の患者に投与した結果ではありませんでした。

大村 そうです。しかも試験管とはいえいま、各種の病気の治療薬や予防薬に使っているよりも高濃度で投与したもので、これでコロナウイルスの増殖を抑えたというだけでは臨床にはまだ無理かなと思っていました。

馬場 ところが、アメリカのユタ大学、ハーバード大学などの共同研究グループが、臨床で効果があるというきれいなデータをだしてきましたね。

大村 これにはびっくりしました。学術論文としては非常に説得力のある治験成果です。まずイベルメクチン治療の患者が704例、イベルメクチンを投与しなかった患者も704例。しかも世界の169施設からの臨床データを分析したもので、男女、人種、他の疾患などを勘案した非常にしっかりした臨床治験デザインなので信頼性が高いものでした。

馬場 これからのコロナ治療に、有力な方法になるかと期待を持たせるものでしたね。

大村 別表のように、イベルメクチンはコロナ感染症の治療に確実に効いたという報告があります。この数字を見ると、有効な治療薬として使えるのではないかと大いに期待を抱かせるものでした。ドミニカ共和国からも臨床治験で

効果があったとする報告が出ています。

また、フランスのベンチャー企業はビル・ゲイツ財団の支援金を使って急きよイベルメクチンの臨床治験に取り組むことになったそうです。この企業はもともと、マラリアの特効薬の開発に取り組んでいましたが、この際、コロナウイルスの治療に方向転換するという事です。

そのほかタイでも、イベルメクチンをデング熱の臨床治療に使っており、抗ウイルス剤としてコロナウイルスの抑制にも効果を出すのではないかと期待されていることが報告されています。

アメリカのユタ大学などの研究グループの成果

	イベルメクチン 治療患者の死亡率	イベルメクチンを投与しなかった 患者の死亡率
全体の患者	1.4%	8.5%
人工呼吸器群	7.3%	21.3%



東京都港区白金にある大村智記念研究所

(<https://www.kitasato-u.ac.jp/lisci/international/OmuraSatoshi.html>)

馬場 おひざ元の北里大学・大村智記念研究所のグループがコロナウイルスをターゲットにし、イベルメクチンの効果を臨床レベルで取り組んでいると聞いていますが、これは如何でしょうか。

大村 基礎的な研究から臨床レベルまで広範囲に取り組んでおり、コロナウイルスに対するイベルメクチンの効果を確かめています。これはまだ発表でき

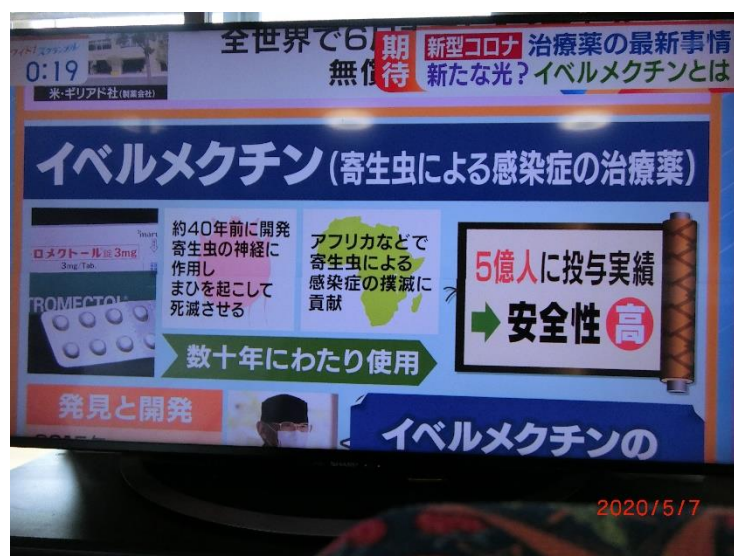
るようなデータはまとまっていませんが、私は期待しています。

馬場 本日（4月6日）西村経済再生担当相は、新型コロナウイルス対策プロジェクトに取り組んでいる北里大学の研究所を視察したそうですね。

大村 はい、来ていただきました。外国の文献でイベルメクチンの効果が発表されているので関心を持っていただいたようです。期待に応えるためにも全力で解明に取り組んでいます。



イベルメクチンの説明をする大村先生（写真右）
（写真左は大村智記念研究所・小林弘祐理事長、写真・北里大学提供）



イベルメクチンの効果を期待するテレビ特集
（5月7日朝、テレビ朝日）

馬場 西村大臣が大村智記念研究所を視察し、大村先生が説明している様子といベルメクチンのこれまでの治療と予防についての実績をいくつかのテレビ局の特集番組で放映していました。副作用がほとんど見られない実績のある薬になっていますから、コロナに効くことが実証されるとまさに救世主となります。

ところで、寄生虫とか線虫に効くイベルメクチンが、なぜ極微小生物であるウイルスに作用して死滅させるのでしょうか。その作用機序はどのようにお考えでしょうか。専門的にはエバーメクチンになりますが、ここではイベルメクチンという言い方で統一していただくと有難いです。

大村 これは非常に難しい課題になっています。これまでの研究では、イベルメクチンは細菌や真菌などには抗菌性を持たず、寄生虫（鉤虫、回虫、肺線虫、糸状虫などの線虫類）やダニ、ハエの成虫や幼虫などの節足動物に、ごく少量で強い殺虫作用がある事が分かっています。

これは寄生虫や節足動物の神経などに選択的に働き、寄生虫や節足動物が麻痺を起こすことで死に至らしめると考えられています。しかし、ヒトなどのほ乳動物には脳関門がブロックして中枢神経系には浸透しないため、このような作用はほとんど生じないと言われていました。

馬場 先ほども紹介しましたが、イベルメクチンには副作用がないのが特長ですね。コロナにはどうして効くと推測できますか？

大村 コロナウイルスは、人体の中に入ると細胞の中に入り込んで増殖します。イベルメクチンは細胞内のシグナル伝達物質である塩素イオンの通り道であるチャネルに結合して、寄生虫が麻痺をおこして死ぬとされています。一方で別の機序も言われています。ウイルスが細胞に入って核に到達するときに必要なタンパク質を持っているのですが、イベルメクチンはこれと結合して核に入るのをブロックするのではないかとされています。

馬場 大分、専門的になってきましたが、イベルメクチンは広範囲に作用する物質であり人類がこれまで出会ったことがないような化学物質と思います。今後、イベルメクチンの臨床効果が確実に出てきましたら、またお話を聞かせてください。今日は、ありがとうございました。

続いて、視察を終えた西村大臣が、急きょ、記者会見したときの発言を簡単に紹介します。

西村康稔経済財政・再生相の視察後の記者会見



(記者会見する西村大臣、写真は北里大学提供)

西村康稔経済財政・再生相は、イベルメクチン研究の本拠地、北里大学・大村智研究所を視察したあと、即席の記者会見を行い次のように語った。

イベルメクチンは抗寄生虫薬で実績を出しており、今回は新型コロナ治療薬として期待を集めている。安倍晋三首相からも高い期待感を示された。

アメリカのユタ大などは、新型コロナ感染者に投与したところ、投与していない患者に比べて死亡率が約6分の1に下がったと報告している。

イベルメクチンをコロナウイルス感染症の治療薬にするための研究開発支援に全力をあげたい。補正予算では、日本医療研究開発機構（AMED）へ200億円、ワクチン開発に100億円を計上しているので、日本初の治療薬やワクチン開発に期待している。実用化に向けた研究や治験を後押ししたい。

以上